

「視写」の基本は……

- ①意味を考えながら
- ②文節ごとに覚えつつ
- ③先生が書かれる板書の文章を写す

【引用】教育技術×EDUPEDIA

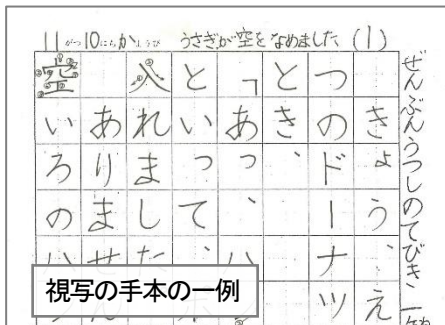
乙島っ子

令和4年度 NO. 3

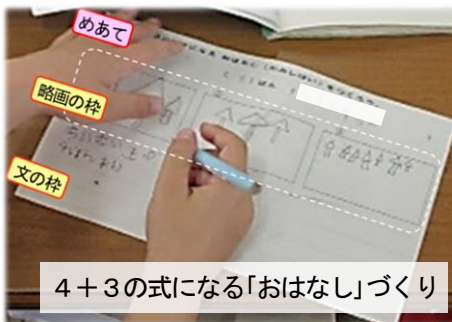
令和4年 4月26日 倉敷市立乙島小学校

視写のススメ

学力調査を翌日に控えた前号では、結構大慌てで発出したにもかかわらず、ありがたいことに、「学ぶ」=「真似ぶ」などに対し、「その通りですね」「勉強させられました」などと、複数の方から高評価をいただき、うれしく思われました。そこで、今号の冒頭では、「真似び」の一つとして「視写」を取り上げたいと思います。



「視写」は、あっさり言えば、「全文丸写し」です。では、この「丸写し」には、こういった効能があるのでしょうか。例えば、国語の物語文の本文を「丸写し」しているとしましょう。このとき、頭の中では、きっと、文を読んでいると思われれます。そうです。実は、書きながら「読む」ことが行われているのです。しかも、「超」ゆっくり・じっくりと…。こうして考えてくると、「丸写し」には、「本文を、言葉の意味などをかみしめながら、ゆっくり・じっくりと、『頭』と『目』と『手』を使って読む」といった「良さ」があるのではないかと考えられるのです。



日々の授業では、当然のことながら、「板書」が行われています。写真は、昨年度の学校だよりも紹介した様子ですが、左の「板書」に対し、教師は、同じ形式のワークシートを配付し、考えをかかせています。児童の様子を見て回りながら、教師は、「難しい人は、黒板のおはなしとおんなじでいいからね」と、「丸写し」を促していました。

PTA表彰のご紹介

本来でありますと総会にて表彰申し上げるべきところですが、このたび、幼稚園・小学校と5年間にわたりPTA活動の推進にご尽力いただいた保護者の方が、その功績を称えられ、倉敷市PTA連合会より表彰を受けられました。なお、表彰は、18日の懇談後に、校長が表彰状を代読する形で行わせていただきました。

